

北海道八雲町 第三セクター等経営健全化方針

この方針は、相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する地方公共団体が、当該第三セクター等の抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

1 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和5年9月28日
作成担当部署 農林課

2 第三セクターの概要

法人名 株式会社青年舎
代表者名 代表取締役 吉田 邦夫
所在地 北海道二海郡八雲町上八雲390番地1
設立年月日 令和元年6月27日
資本金 25,000千円【八雲町の出資額（出資割合）12,100千円（48.4%）】
業務内容 生乳の生産販売、乳牛肉牛の飼育販売、乳牛及び肉牛の預託管理、酪農担い手育成等

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

農業担い手の高齢化や酪農家戸数の減少という地域の課題を背景に、研修機能と生乳生産量拡大を両立するため令和元年6月に町、農協、地域の生産者が出資し、新たに核となる株式会社青年舎を設立。

令和4年度は、乳牛飼養頭数の増頭・確保を図りながら、搾乳ロボット等の省力化機械やコントラクター等の外部支援組織の活用を推進し、労働負担を軽減することで酪農経営を展開してきた。当期の売上高は、生乳販売と個体販売が主であり、乳用牛の増頭を計画的に行いながら、生乳生産量を拡大し計画乳量を上回る成績を収めたが、国内外の社会情勢の変動による飼料・肥料等の高騰、個体販売価格の下落等が長期化している影響を受け、161,721,846円の当期純損失となった。

町は、収支に関して毎月報告を受け、日頃から経営状況の把握に努めている。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

円安やウクライナ情勢などの影響による飼料、肥料及び資材価格の高騰が続いており、厳しい経営状況となっているが、今後は和牛受精卵移植事業等を実施することにより、潜在的な収益性が見込まれ、収益事業の強化や経費の見直し等を進めることで自主的な経営再建が可能。乳代以外の収入の増加を図り、期間内での経営の健全化を目指している。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

令和5年4月末に運転を開始したバイオガスプラント（発電出力250kw）により、発生する消化液は農地へ還元、固形物は敷料として再生・再利用し、購入敷料費の大幅な低減を図る。令和6年5月からは、発電した電力を固定価格買取制度（FIT）により売電し、売上の増加に取り組む。さらに、乳牛への和牛受精卵移植（ET）による付加価値の高い和牛子牛生産を拡大させるとともに乳牛の個体改良の促進により酪農生産基盤の強化及び生乳の安定供給を行う。また、メガファームのスケールメリットを活かした仕入れの効率化等による経費削減及び組織、人員配置を見直し、人件費の削減を行うことで更なる収益改善を図る。

6 法人の財務状況

	項目	金額(千円)
		令和4年度
貸借対照表から	資産総額	2,018,196
	（うち流動資産）	582,778
	（うち固定資産）	1,388,320
	（うち繰延資産）	47,098
	負債総額	2,157,786
	（うち当該地方公共団体からの借入金）	0
	純資産額	▲139,590

	項目	金額(千円)
		令和4年度
損益計算書から	売上高	561,897
	売上原価	622,126
	販売費及び一般管理費	138,041
	営業利益	▲198,270
	営業外収益	53,673
	営業外費用	22,849
	当期純利益	▲161,722